

# 光信公ゆかりの地紀行2

## 岩手県久慈市 光信公のふるさと



戦国の世を生きた武将・大浦光信公ゆかりの地をめぐる歴史紀行。今回は、光信公の出身地とされる岩手県久慈市を訪れます。

前回、秋田県横手市で非業の死をとげた金沢家光（光信の祖父）でしたが、幼子の家信は、家臣とともに南部領へ逃れます。家信は、もともと父の領地であった下久慈に戻り、後にその領主となりました。

やがて家信の子として光信が誕生します。このことは、津軽藩の公式史書「津軽一統志」付巻の「高屋家文書」などでも裏付けられています。まさに久慈市こそが、光信が生まれ育ったふるさとだったのです。

### ●歴史紀行マップ



**久慈市のプロフィール**  
 岩手県の太平洋沿岸に位置し、国内最北端で漁をする「北限の海女」、NHK連続テレビ小説「あまちゃん」ロケ地、国内最大の「琥珀」採掘地などで知られる。平成30年、久慈市と鱒ヶ沢町は「歴史文化で結ぶ友好協定」を締結しました。

■久慈氏と久慈城  
 一方、久慈川の上流部は「上久慈」と呼ばれ、光信と同族である久慈氏が治めていたとされています。久慈氏の

■下久慈を訪ねて  
 当時の光信の根拠地「下久慈」はどこだったのか？ 現在、久慈市内に下久慈という地名はありませんが、近年の研究では、久慈湾に注ぐ久慈川の河口付近、かつて長久寺があったとされる田屋町、新井田地区ではないかと考えられています。

■久慈氏と久慈城  
 久慈と光信との関わりを紹介する説明板があるので、ぜひ一度訪れてみてください。

■光信公実在の手がかり  
 久慈市には、光信の実在をうかがわせる史料も残っています。長内町の蛭子神社にある文明13年（1481）の



久慈城跡（久慈市指定史跡）



蛭子神社棟札（久慈市指定文化財）



光信公ゆかりの蛭子神社

楳札には、南部信濃守の嫡子・右京助久信が金峰山社檀を建立したと書かれており、南部信濃守は光信の父・家信右京助久信が光信本人と推定されています。蛭子神社は、もとは薬師如来を祀る金峰山西光寺という寺でした。  
 寛正元年（1460）生まれとされる光信は、この時22歳。おそらく当時は「南部光信」を名のっていたと考えられます（蛭子神社楳札は「光信公の館」で複製写真が見学できます）。  
 この楳札からちょうど10年後の延徳3年（1491）、光信は久慈の地を離れ、はるばる鱒ヶ沢町の種里城に向かうこととなります。次号「光信公がくる」にご期待ください。  
 （町学芸員 中田）